

チリの落葉果実事情(生食用ブドウ、リンゴ)

米国農務省GAINレポート 2023年5月17日

これは米国農務省海外農業局サンチャゴ事務所(チリ)が作成した「生鮮落葉果実半期報告書」の要点及び生食用ブドウとリンゴの項を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

報告書の要点

海外農業局サンチャゴ事務所は、2022/23販売年度(以下「年度」)の生食用ブドウの生産量を前年比8.6%減の72万トン、輸出量を8.7%減の55万5千トンと推定する。同事務所はまた、2022/23年度のリンゴの生産量を栽培面積の減少により2.9%減の100万トンと推定する。リンゴの輸出量は3.2%減の58万3千トンと推定される。洋ナシについては栽培面積の減少傾向を考慮し、同事務所はチリの2022/23年度の洋ナシの生産量を4.8%減の21万トン、輸出量を4.9%減の11万トンと推定する。(以下、洋ナシについては省略)

<生食用ブドウ>

表1 チリの生食用ブドウ生産需給統計

| 生食用ブドウ(生鮮) 販売年度 チリ | 2020/2021 | | 2021/2022 | | 2022/2023 | |
|--------------------------|------------------|---------|------------------|---------|------------------|---------|
| | 2020年10月～2021年9月 | | 2021年10月～2022年9月 | | 2022年10月～2023年9月 | |
| | 農務省公式 | 今回推計値 | 農務省公式 | 今回推計値 | 農務省公式 | 今回推計値 |
| 栽培面積 | 45,489 | 45,489 | 43,104 | 43,104 | 42,500 | 42,500 |
| 収穫面積 | 44,000 | 44,000 | 43,000 | 43,000 | 42,000 | 42,000 |
| 商業的生産量 | 660,000 | 660,000 | 788,110 | 788,110 | 732,000 | 720,000 |
| 非商業的生産量 | 4,700 | 4,700 | 5,000 | 5,000 | 4,800 | 4,800 |
| 生産量合計 | 664,700 | 664,700 | 793,110 | 793,110 | 736,800 | 724,800 |
| 輸入量 | 700 | 700 | 900 | 900 | 700 | 700 |
| 総供給量 | 665,400 | 665,400 | 794,010 | 794,010 | 737,500 | 725,500 |
| 生鮮国内消費量 | 139,900 | 139,900 | 185,810 | 185,810 | 182,500 | 170,500 |
| 輸出量 | 525,500 | 525,500 | 608,200 | 608,200 | 555,000 | 555,000 |
| 市場からの隔離 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 総仕向量 | 665,400 | 665,400 | 794,010 | 794,010 | 737,500 | 725,500 |

単位: ヘクタール、トン

出典: サンチャゴ事務所推計

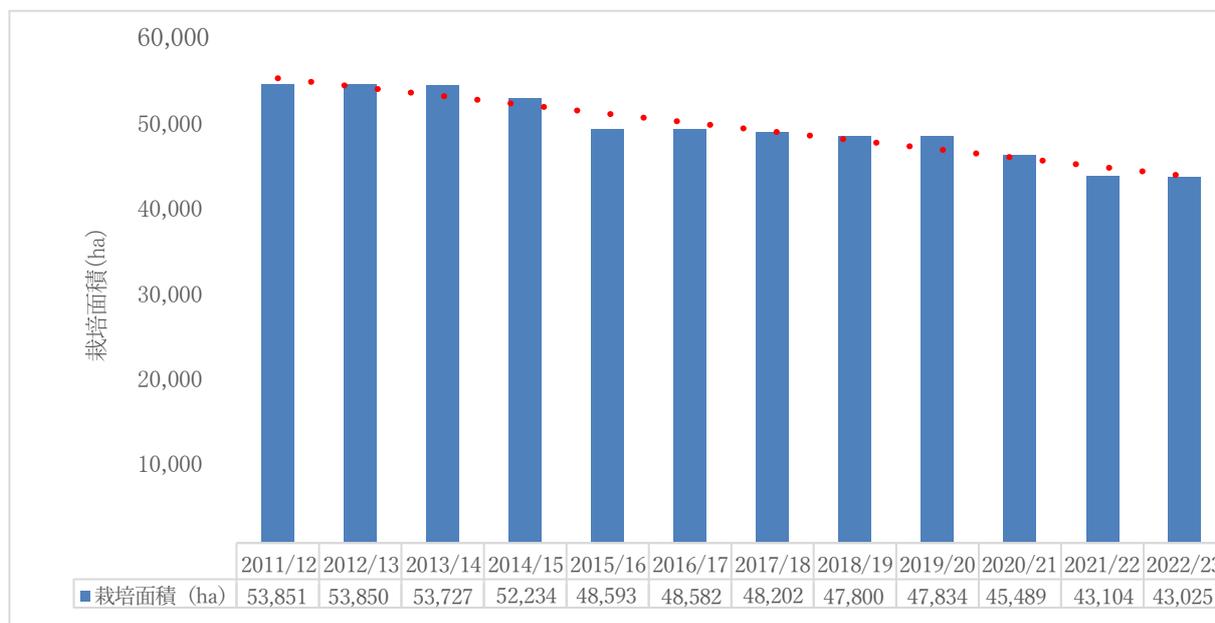
生産

当事務所は、2022/23年度の生食用ブドウの生産量を8.6%減の72万トンと推定する。生産量の減少は、栽培面積の減少と、国の中央部における悪天候に起因する収量の低下によるものである(図1)。生食用ブドウの栽培面積は、収益性の低さと輸出市場におけるペルー産との競争により減少傾向にある。栽培面積は、2011/12年度の5万3,851ヘクタールから2022/23年度には4万3,025ヘクタールに減少した。

農業研究政策局(ODEPA)のデータによると、すべての生食用ブドウ産地で栽培面積が減少している(表2)。米国市場におけるペルーとの競争、高い生産コスト(人件費、輸送費、農薬・化学肥料)及び生食用ブドウの品種更新の必要性が、生食用ブドウ輸出業者に下向きの圧力をかけている。栽培面積の減少は、生食用ブドウ生産に代わるものがほとんどないアタカマ州で特に顕著である。コキンボ州とバルパライソ州では、生食用ブドウの栽培面積の減少は、柑橘類の栽培面積の増加によって相殺されている。

首都州とオイギンス州の生食用ブドウ栽培面積は、過去3販売年度の間にそれぞれ14.1%及び52%減少した。これらの州では、生食用ブドウの園地は、クルミ、サクランボ、柑橘類などのより収益性の高い作物に置き換えられるか、都市の拡大に飲み込まれた。

図1 生食用ブドウの栽培面積(ヘクタール)



出典: ODEPA, 2023

表2 生食用ブドウの州別栽培面積 2022/23 年度 単位: ヘクタール

| 地域 | 栽培面積 (ha) | 増減率* | シェア |
|-----------|---------------|---------------|---------------|
| アタカマ州 | 5,987 | -12.4% | 13.9% |
| コキンボ州 | 7,321 | -10.3% | 17.0% |
| バルパライソ州 | 9,970 | -10.9% | 23.2% |
| 首都州 | 6,848 | -14.1% | 15.9% |
| オイギンス州 | 12,736 | -5.2% | 29.6% |
| マウレ州 | 163 | -32.3% | 0.4% |
| その他 | 1 | | |
| 合計 | 43,025 | -10.7% | 100.0% |

*増減率は、3年ごとに計測される。上記のデータは入手可能な直近のものである。

出典: 農業省農業研究政策局(ODEPA)の2023年のデータに基づく

消費

当事務所は、2022/23年度の生食用ブドウの生鮮国内消費量を、商業的生産量の23.6%に当たる17万500トンと推定する。この消費水準は、2021/22年度に比べて8.2%少なく、生産量の減少とそれに起因する価格の上昇によって説明される。

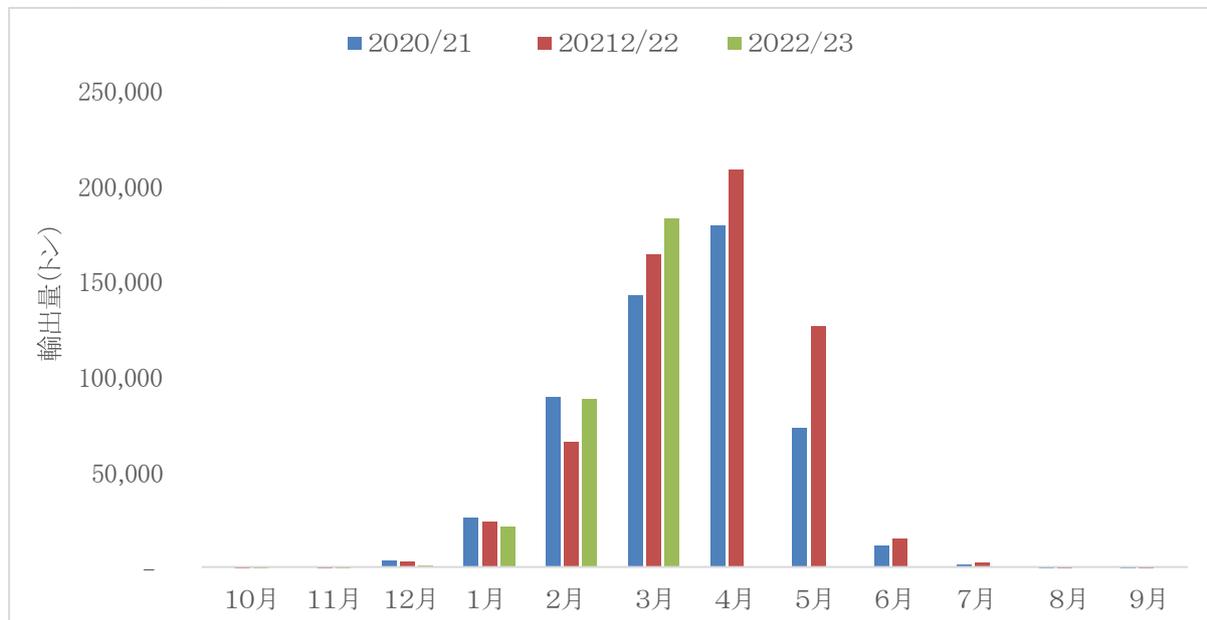
貿易

当事務所は、2022/23年度の生食用ブドウの輸出量を、生産量の減少に伴い8.7%減の55万5千トンと推定する。2022/23年度の3月までのデータによると、生食用ブドウのこの期間の輸出量は2021/22年度よりも14.2%多い。しかし、2021/22年度には、物流全般の問題と港湾における遅延のため(輸出の立ち上がりが遅く)、ピークが4月にずれ込んだ(図2)。通常、チリの生食用ブドウの輸出は3月にピークに達するため、当事務所は、2022/23年度の4月と5月の輸出量は、2021/22年度の同じ月と比較して減少すると予想する。

2021/22年度の生食用ブドウの輸出量は、前年比15.7%増の60万8,200トンであった(表3)。米国はチリ産生食用ブドウの主要な輸出市場である。米国向け輸出量は31万333トンで、これはチリの生食用ブドウ輸出量の51%に相当する。2022/23年度の3月までのデータによると、米国向けの生食用ブドウの輸出量は7.4%増の19万3,409トンとなっている(表3)。

中国はチリの生食用ブドウの2番目に大きな市場であり、2021/22年度には7万7,627トンとチリのブドウの総輸出量の12.8%を占めた。2022/23年度(3月までのデータ)は、チリの中国向けの輸出は32.3%増の2万3,582トンとなっている。

図2 月別ブドウ輸出量(トン)



出典: Trade Data Monitor, LLC

表3 チリの生食用ブドウ輸出量(トン)

| 輸出先国 | 販売年度 | | | 年度初めから3月まで | | |
|--------|---------|---------|--------|----------------------|----------------------|--------|
| | 2020/21 | 2021/22 | 変動率 | 2021年10月 ~2022年3月 | 2022年10月 ~2023年3月 | 変動率 |
| 世界合計 | 525,457 | 608,194 | 15.7% | 256,524 | 292,905 | 14.2% |
| 米国 | 254,825 | 310,058 | 21.7% | 180,124 | 193,409 | 7.4% |
| 中国 | 78,117 | 77,627 | -0.6% | 17,823 | 23,582 | 32.3% |
| オランダ | 28,030 | 45,196 | 61.2% | 5,042 | 8,806 | 74.7% |
| 英国 | 18,175 | 23,789 | 30.9% | 4,497 | 5,848 | 30.0% |
| 韓国 | 23,222 | 17,952 | -22.7% | 9,130 | 11,037 | 20.9% |
| 日本 | 11,535 | 14,118 | 22.4% | 9,775 | 10,730 | 9.8% |
| メキシコ | 9,112 | 11,239 | 23.3% | 6,445 | 6,543 | 1.5% |
| スペイン | 9,489 | 10,536 | 11.0% | 1,987 | 4,458 | 124.4% |
| エクアドル | 9,011 | 9,654 | 7.1% | 2,870 | 3,014 | 5.0% |
| カナダ | 10,892 | 9,600 | -11.9% | 4,060 | 5,001 | 23.2% |
| インドネシア | 9,392 | 7,431 | -20.9% | 447 | 369 | -17.4% |
| ブラジル | 3,873 | 6,551 | 69.1% | 1,145 | 2,499 | 118.3% |
| 台湾 | 2,842 | 5,721 | 101.3% | 1,166 | 1,619 | 38.9% |
| ドイツ | 3,202 | 5,641 | 76.2% | 840 | 1,482 | 76.4% |
| ポルトガル | 3,888 | 4,694 | 20.7% | 812 | 946 | 16.5% |
| その他 | 49,852 | 48,387 | -2.9% | 10,361 | 13,562 | 30.9% |

出典: Trade Data Monitor, LLC.

政策

チリは3つの産地(アタカマ州、コキンボ州、バルパライソ州)から米国への市場アクセスを改善するためシステムアプローチの採用を求めている。システムアプローチは、ヨーロッパブドウ蛾(仮称、ハマキガ科の *Lobesia botrana*)に対する臭化メチル燻蒸の使用を回避することにより、これら3つの地域に利益をもたらす。燻蒸は果実の品質と貯蔵寿命を低下させ、その結果、小売業者への販売価格の低下につながる。さらに、燻蒸した果実は米国農務省の有機認定を受けることができない。

米国農務省の動植物検疫局は、2022年10月17日に連邦官報に規則案を公表し、コメント期間は2023年1月17日に終了した。現在、チリ当局と輸出業者らは最終的な規則の公表を待っている。

<リンゴ(生鮮)>

表4 チリのリンゴ生産需給統計

| リンゴ(生鮮) 販売年度 チリ | 2020/2021 | | 2021/2022 | | 2022/2023 | |
|-----------------------|------------------|-----------|------------------|-----------|------------------|-----------|
| | 2021年1月～2021年12月 | | 2022年1月～2022年12月 | | 2023年1月～2023年12月 | |
| | 農務省公式 | 今回推計値 | 農務省公式 | 今回推計値 | 農務省公式 | 今回推計値 |
| 栽培面積 | 32,314 | 32,314 | 30,967 | 30,967 | 30,500 | 29,035 |
| 収穫面積 | 31,300 | 31,300 | 30,000 | 30,000 | 29,500 | 28,500 |
| 結果樹本数 | 34,430 | 34,430 | 33,000 | 33,000 | 32,500 | 32,500 |
| 未結果樹本数 | 2,400 | 2,400 | 2,300 | 2,300 | 2,250 | 2,250 |
| 果樹総本数 | 36,830 | 36,830 | 35,300 | 35,300 | 34,750 | 34,750 |
| 商業的生産量 | 1,088,700 | 1,088,700 | 1,036,000 | 1,030,000 | 1,030,000 | 1,000,000 |
| 非商業的生産量 | 10,000 | 10,000 | 10,000 | 10,000 | 10,000 | 10,000 |
| 生産量合計 | 1,098,700 | 1,098,700 | 1,046,000 | 1,040,000 | 1,040,000 | 1,010,000 |
| 輸入量 | 3,300 | 3,300 | 3,000 | 3,000 | 3,000 | 3,000 |
| 総供給量 | 1,102,000 | 1,102,000 | 1,049,000 | 1,043,000 | 1,043,000 | 1,013,000 |
| 国内消費量 | 458,300 | 458,300 | 439,000 | 440,419 | 438,000 | 430,000 |
| 輸出量 | 643,700 | 643,700 | 610,000 | 602,581 | 605,000 | 583,000 |
| 市場からの隔離 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 総仕向量 | 1,102,000 | 1,102,000 | 1,049,000 | 1,043,000 | 1,043,000 | 1,013,000 |

単位: ヘクタール、千本、トン

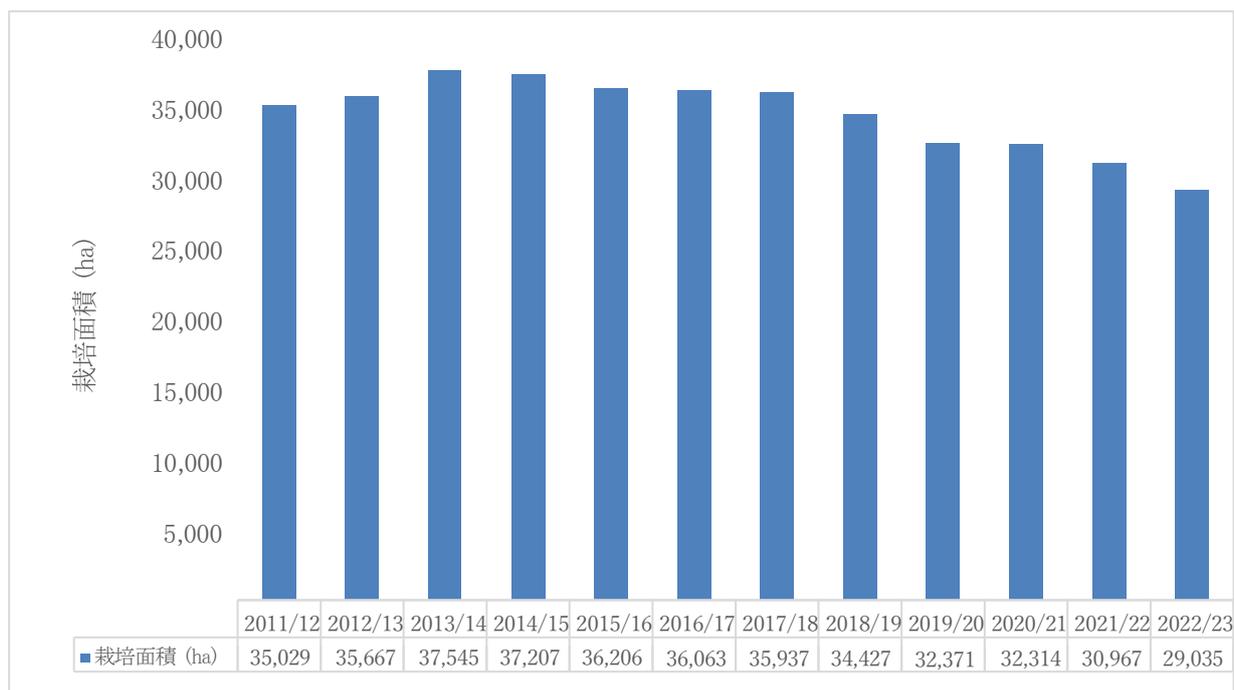
出典: サンチャゴ事務所推計

生産

当事務所は、2022/23年度のリンゴの生産量を、2021/22年度に比べ2.9%減の100万トンと推定する(表4)。2022/23年度のリンゴの栽培面積は6.2%減少し、2万9,035ヘクタールとなった。良好な気象条件によって収量が増加したため、生産量の減少率は栽培面積の減少率より小さい。雨の多い冬、長い低温期間及び春の穏やかな気温がリンゴの収量に有利に働いた。

ODEPAの最新データによると、チリのすべてのリンゴ産地で栽培面積が減少した(表5)。リンゴの栽培面積の減少は、この品目が輸出市場で直面している競争の激しさと利益の低さによって説明される。国の中南部のマウレ州とオイギンス州は、それぞれ栽培面積の62.4%と22.0%を占め、併せて総栽培面積の84.4%を占めている。しかし、多くの生産者が所有する果樹園では、新しい品種やサクランボ、クルミなどの他の品目と比較して収益性の低い古い品種を栽培しているため、両州で栽培面積が減少した。

図3 リンゴの栽培面積(ヘクタール)



出典: ODEPA, 2023

表5 リンゴの州別栽培面積 2022/23 年度 単位: ヘクタール

| 地域 | 栽培面積(ha) | 増減率* | シェア |
|-----------|---------------|---------------|---------------|
| バルパライソ州 | 144 | -4.1% | 0.5% |
| メトロポリタン州 | 83 | -38.0% | 0.3% |
| オイギンス州 | 6,388 | -17.4% | 22.0% |
| マウレ州 | 18,110 | -4.2% | 62.4% |
| ニューブレ州 | 860 | -14.3% | 3.0% |
| ビオビオ州 | 584 | -6.3% | 2.0% |
| アラウカニア州 | 2,834 | -7.4% | 9.8% |
| その他 | 31 | | 0.1% |
| 合計 | 29,035 | -10.3% | 100.0% |

*増減率は、3年ごとに計測される。上記のデータは入手可能な直近のものである。

出典：農業省農業研究政策局(ODEPA)の2023年のデータに基づく

消費

当事務所は、2022/23年度のリンゴ(生鮮消費用及び加工用)の国内消費量を合計43万トンと推定しており、これは商業的リンゴ生産量全体の43%に相当する。リンゴの国内消費量は、生産量の減少に伴い2021/22年度に比べて2.4%減少すると見られる。チリの高水準のインフレによって消費が押し下げられ、消費量が減少した。業界関係者は、価格が上昇する中、チリの消費者は消費者支出を最小限に抑えるため、小玉のリンゴを購入したが、全体的な購入量も減少したと指摘している。

政策

報告すべき新しい政策の進展はない。

貿易

当事務所は2022/23年度のチリのリンゴ輸出量を、2021/22年度に比べて3.2%減の58万3千トンと推定する。2022/23年度は収量が増え、栽培面積の減少の一部を相殺するはずであり、したがって輸出量の減少は栽培面積の減少よりも小さいと見られる。

2021/22年度のチリのリンゴ輸出量は、2021/22年度から6.4%減の60万2,581トンであった。チリのリンゴ輸出業者にとっての2021/22年度の主な困難は運賃の上昇であり、輸出業者は赤字での運営を強いられた。2022/23年度には運賃が下がり、輸出業者はコストの低下により輸出量を増やすものと見込まれる。

コロンビアはチリ産リンゴの最大の市場である。チリは2021/22年度に8万5,899トンのリンゴをコロンビアに輸出し、これはチリのリンゴ輸出量の14.3%に相当する(表6)。ブラジルはチリ産リンゴの2番目に大きい市場である。2021/22年度には、海上輸送よりも陸上輸送のコストが低かったため、ブラジルへの輸出は412%増加した。2021/22年度には、リンゴ輸出業者は米国に出荷するための高い運賃に直面していたが、2022/23年度にはチリ産リンゴの米国への輸出量は6.9%増加し、これは運賃の正常化によって説明される。

図4 月別リンゴ輸出量(トン)



出典: Trade Data Monitor, LLC

表6 リンゴの輸出先別輸出量(トン)

| 輸出先国 | 販売年度 | | | 年度初めから3月まで | | |
|---------|---------|---------|--------|---------------------|---------------------|---------|
| | 2020/21 | 2021/22 | 変動率 | 2022年1月 ~2022年3月 | 2023年1月 ~2023年3月 | 変動率 |
| 世界合計 | 643,736 | 602,581 | -6.4% | 45,552 | 55,590 | 22.0% |
| コロンビア | 74,348 | 85,899 | 15.5% | 14,504 | 16,671 | 14.9% |
| ブラジル | 12,722 | 65,193 | 412.4% | 2,011 | 3,758 | 86.9% |
| 米国 | 60,496 | 52,669 | -12.9% | 1,324 | 1,415 | 6.9% |
| エクアドル | 52,586 | 47,169 | -10.3% | 7,883 | 8,267 | 4.9% |
| ペルー | 35,330 | 39,013 | 10.4% | 4,879 | 4,162 | -14.7% |
| インド | 56,297 | 35,003 | -37.8% | 1,241 | 520 | -58.1% |
| オランダ | 49,013 | 33,819 | -31.0% | 981 | 1,778 | 81.2% |
| 台湾 | 34,093 | 29,432 | -13.7% | 0 | 0 | 0.0% |
| サウジアラビア | 35,913 | 23,848 | -33.6% | 2,154 | 4,053 | 88.2% |
| ドイツ | 26,662 | 19,903 | -25.4% | 41 | 635 | 1448.8% |
| 英国 | 30,080 | 18,770 | -37.6% | 246 | 242 | -1.6% |
| グアテマラ | 14,255 | 16,427 | 15.2% | 1,381 | 1,637 | 18.5% |
| ボリビア | 16,514 | 15,992 | -3.2% | 2,165 | 2,305 | 6.5% |
| フランス | 17,556 | 12,693 | -27.7% | 402 | 48 | -88.1% |
| 中国 | 7,645 | 11,497 | 50.4% | 419 | 463 | 10.5% |
| その他 | 120,226 | 95,254 | -20.8% | 5,921 | 9,636 | 62.7% |

出典: Trade Data Monitor, LLC.